

研究テーマ

西伊豆地区における血液透析患者の身体機能と栄養状態
—先行研究との比較—

病院名

医療法人社団健育会 西伊豆健育会病院

演者

○須田^{すだ}渚(理学療法士) 有賀裕記(理学療法士) 久保晴紀(理学療法士)
藤巻龍一(作業療法士)

概要

【研究背景】

内容:670例の維持血液透析患者に対して、患者背景・BMI・GNRI・握力・膝伸展筋力・通常歩行速度・SPPBを調査した。

結果:参照

【研究目的】

高齢化が著しい西伊豆地区の外来透析患者の身体機能及び栄養状態を先行研究と比較し、その特徴と傾向を明らかにする

【研究方法】

参照

【結果】

GNRI・BMIから低栄養は示されなかった。握力・歩行速度では先行研究と比較して低値を示し、カットオフ値も下回った。また、70・80歳代での低下を示した。膝伸展筋力では検査方法が異なっており、バンド固定なしでの方法となっているため参考値として扱い、結果として全年齢層で先行研究・カットオフ値と比較し低値を示した。SPPBでは70代から80代にかけての低下を示した。

【考察】

西伊豆地区において高齢化が著しい事がわかった。また、全国の透析患者割合でも西伊豆地区の高齢化が示された。透析患者に関して低活動が示唆されており、平均年齢54.9歳のデータでは、45%が座りがち(寝たきり)であり、5000歩/日未満となっている報告1)や透析日の時間的制約や倦怠感によって非透析日と比べて少ないと報告2)されている。本研究の結果として先行研究より身体機能の低下がわかったことから低活動が起因の一つになっていると考える。また、西伊豆地区の地域特性として急傾斜地域が多いことやスーパーなどが遠く、移動手段が主に車であることから歩行機会が減少しているなどの要因も考えられる。

【結論】

本研究より先行研究データと比較し、西伊豆地区の身体機能の低下が著明であり、低活動が起因の1つとなっている事がわかった。今後は、より起因を追求し活動量を上げるためにone teamで活動していきたいと考えております。

【引用参考文献】

- 1)Avesani CM, Trolonge S, Deléaval P, et al:Physical activity and energy expenditure in haemodialysispatients:an international survey. Nephrol Dial Transplant 27:2430-2434, 2012
- 2)Majchrzak KM, Pupim LB, Chen K, et al:Physi-cal activity patterns in chronic hemodialysis pa-tients:comparison of dialysis and nondialysisdays,. J Ren Nutr, 15(2):217-224, 2005.
- 3)維持血液透析患者の栄養状態と身体機能の性別と年代別にみた代表値:原 采花:理学療法第47巻第3号 207~214 2020